

種名	<p style="text-align: center;">シ                      ジ                      ミ</p> <p style="text-align: center;"><u>Corbicula leana</u></p> 
分類	マルスダレガイ目シジミ科シジミ属
俗称	シジミガイ(三重、佐賀)、シジメ(愛知)
形態的な特徴	殻はハマグリ型で、殻長は 40mm、殻高 35mm、殻皮は黒いが若いときには黄褐色で焼けこげ状の斑紋があり、殻の内側は濃い紫色であるところは、放射状のすじがあり、汽水域に生息するヤマトシジミと区別できる。アサリなどと同じく入水管が発達する。
分布	本州から九州の各地に分布する。
繁殖行動	繁殖の最盛期は5月下旬から8月中旬である。卵胎生で幼生は親の体内で 0.2mm くらいになるまで保育される。雌雄同体で、体内受精をする。3倍体。
生息場所	河川の中流から下流の砂底中に殻の縁を出すくらいで浅く潜ってすむ。イシガイ類とは異なり、あまり移動しないようである。
食性	エサはおもに有機物などである。
生息環境への配慮事項	水質の汚染にはあまり強くなく、底質も砂底を好むことから、水質の悪化、底質の泥化などにより減少している。宮崎県では休耕田を利用して養殖をしているところもあるが、通常食用にされるのは汽水性のヤマトシジミである。本種の保全には水質と底質に配慮する必要がある。そのため水路の底に砂がなかったり、逆に泥がたまってしまふような水域では生息できず、底質の維持管理等が必要である。近年売られているシジミは中国産などであり、売れ残りのシジミを投棄することは避けるべきである。また、外来種の定着が報告され、在来のマシジミが減少しているとされる。
その他	マシジミは準絶滅危惧(新潟県RDB)
引用文献： <a href="http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html">http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html</a> を改変	